



学校・園庭ビオトープ チェックシート

— 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017の審査結果より —

このコンクールでは、学校ビオトープ・園庭ビオトープを通じた教育や保育を、6つの審査観点で評価しています。

以下は、それらの審査観点に基づき、補足調査(現地)に携わった審査委員が高く評価した事例です。みなさまの取り組みを自己評価する際にご活用ください。



●ビオトープについて

- 生物多様性を保全するために、また、子どもたちの正しい自然観を培うために、自然のもの(在来種)と自然ではないもの(愛玩動物、農作物、園芸種、外来種)を区別している。
- (規模にかかわらず) 目標とする野生の生きものの誘致や自然発生を目指して、課題を見いだしながら、保全管理で工夫している。

●子どもの関わりについて

- (特に幼児教育や保育の場合) 自然との触れ合いをきっかけとして、遊びに発展性や他の活動への展開が見られる。
- 自然との触れ合いにとどまらず、野生の生きものの生育・生息しやすい環境づくりや、他の子どものビオトープへの関心を高める普及活動などへと発展している。

●ビオトープの活用について

- 各学年、各学科の教育課程に、ビオトープを通じた教育を系統立てて位置づけている。
- 子どもの気付きや探究する態度を培う工夫をしている。
- (幼児教育や保育の場合) 園庭の自然の様子、園児の活動、そのときの援助の内容などを継続的に記録、検証し、次年度に活かしている。
- 体験活動や学習活動による子どもの成果物が蓄積され、授業の結果が検証されている。

●保護者や地域の方々の関わりについて

- ビオトープを子どもと地域の多様な主体との協働の場と捉え、また、子どもが協働する主体の想いや考えを体感する機会と位置づけている。
- 多様な主体と継続的に連携しながら、保全管理を行っている。

●持続的な管理活用の体制づくりについて

- 教職員全員がビオトープを通じた教育に携わっている。
- 教員間、児童・生徒間で、ビオトープに関する活動の引継ぎが行われている。
- PTAや地域で、ビオトープの管理活用を支える体制が整っている。

●地域への広がりについて

- ビオトープと地域の自然との比較がなされている。
- ビオトープが地域の自然につながっていることの必要性について、気付きを促している。
- 学校・園庭ビオトープの地域での普及、もしくは、自然との共存という考えの普及に貢献している。



公益財団法人
日本生態系協会

全国学校・園庭ビオトープコンクール係

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル

☎ 03-5951-0244 月・金 9:00~18:00 土 9:00~15:00

「学校ビオトープ」「園庭ビオトープ」で検索! www.biotopcon.org